

科目責任者 教務委員長

■ 教育目的

薬学科教育課程の締めくくりとして、これまでに学んだ薬学の学習内容を総括し、優れた薬剤師として社会に貢献できるようにするための知識・技能を確認する。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-①、YD-②、YD-③、YD-④、YD-⑤】

■ 学習到達目標

薬学教育モデル・コアカリキュラムに定められた項目について、演習講義により総合的に復習し、知識を整理しながら理解を深める。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：事前にテキストに目を通して、その日の講義内容の概略を理解しておく。

復習：講義中の疑問点、理解できなかった点は放置しないで積極的に質問し、解決する。毎回実施する確認テストで間違えた内容は、直ちに復習し理解する。テキストにある問題を解いて、知識を確かなものとする。授業の内容は収録して視聴可能にするので、活用して下さい。

■ 授業内容

薬学教育モデル・コアカリキュラムで定められた薬学の学習内容は多岐に渡るが、特に重要と思われる項目、これまでの学習で不十分であったと思われる項目を中心に行う。原則として、1日につき、80分の講義を4コマと30分の確認テストを実施する。なお、授業の内容は各種試験の結果などを分析し、一部変更する場合がある。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	物理	物質の物理的性質（物理平衡、物質の移動）、化学物質の分析（酸と塩基、クロマトグラフィー、電気泳動法、画像診断法）、核磁気共鳴スペクトル、質量分析法、他	C1 (1)～(4) C2 (1)～(3) C3 (1)～(2)
2	化学	化学物質の性質と反応（アルケン、芳香族化合物、官能基の酸性度・塩基性度、有機ハロゲン化物、アルコール、アルデヒド・ケトン・カルボン酸）、他	C4 (1)～(4) C5 (1)～(2) C6 (1)～(2) C7 (1)～(3)
3	生物	器官の構造と機能、細胞を構成する分子、遺伝子、他	C8 (1)～(4) C9 (1)～(6) C10 (1)～(3)
4	衛生	栄養と健康、化学物質の生体への影響、生活環境と健康、他	C11 (1)～(3) C12 (1)～(2)
5	薬理	自律神経系に作用する薬、消化器系に作用する薬、循環器系に作用する薬、感染症と薬、悪性腫瘍と薬、他	C13 (1)～(3)
6	薬剤	薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）、薬物動態の解析、製剤、他	C13 (4)～(5) C16 (1)～(3)
7	法規・倫理・制度	医薬品医療機器等法、薬剤師法、管理薬に関する規制、社会保障制度、他	C18 (1)～(3)
8	病態・薬物治療	循環器疾患、腎臓・尿路の疾患、生殖器疾患、呼吸器・胸部の疾患、内分泌系疾患、代謝性疾患、悪性腫瘍、他	C14 (1)～(5)
9	実務	処方せんの監査、疑義照会、調剤、医薬品管理、麻薬・覚せい剤、血液製剤、消毒剤、他	C15 (1)～(3)

■ 授業分担者

杉山重夫・兎川忠晴 (No.1)、高取和彦・飯田克巳 (No.2)、浦辺宏明 (No.3)、石井一行 (No.4)、菱沼滋 (No.5)、高橋晴美・下川健一 (No.6)、山崎紀子 (No.7)、庄司優 (No.8)、伊東明彦・大野恵子・佐野和美 (No.9)、学外講師 (No.1～9)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

期末試験（総合医療薬学演習試験）の成績によって判定する。

■ 参考書

「スタンダード薬学シリーズ」日本薬学会編（東京化学同人）
薬剤師国家試験問題解説書（本学発行）